

---

# 被虐的美少女戦士ルーネ（1000文字）

ネコにゃん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

被虐的美少女戦士ルーネ（1000文字）

### 【NZマーク】

NZ8632Q

### 【作者名】

ネコにゃん

### 【あらすじ】

ある朝目が覚めると、私は改造されていた……。

(前書き)

この小説には特定のモーテルは存在しないにゃん……ほんとだじょ。

はなはだ唐突な話であるが、ある朝田覚めると私は改造された。体じゅういたる所をサイボーグ化されている。

「なんじや、こりやあ」

全裸で診察台のよくなとこひく寝かされていた私は、起き上がりて周囲を見回した。

「こらつ、責任者出でこい」

すると鉄の扉がすーっと開き、ボンテージルックの男が現れた。

「ほほほ、お目覚めのようね」

「おい、ここはどこだ、私に何をした？」

「ここは秘密結社マゾダムのアジト、そしてあんたは我らが科学技術の粋を集めて造ったマゾボーグの試作品一号よん」

「マゾボーグ……？」

「そう、開発コードネームはルーネ。今日からあんたのことはルーネちゃんって呼ぶからね」

「アホかい」

そのとき部屋の天井にあるスピーカーで、ハザード音が鳴った。

「緊急事態発生、敵のサドロイドがここのアジトへ侵入したもよう」

部屋のすぐ外でもの凄い爆発音がして、壁の一部に大穴が開いた。現れたのは、これまたボンテージルックのロボット、右手には革製のムチを握っている。すかさずオカマ野郎が叫んだ。

「さあルーネちゃん、やつておしまい」

「なんで私が」

しかしサドロイドの振るうムチが容赦なく私を襲う。

「ぴつしーん！」

「きやあ」

したたか打たれると、私の乳首が赤く点滅し始めた。

ぴこーん、ぴこーん、ぴこーん

「なにこれ、乳首が光ってる」

「それは被虐量インジケーター、あんたが責めを受けるたびマゾパワーが増大し、その光も強くなつてゆくのよ」

「ひとの乳首にこんなもん取り付けんな！」

ぴしり！

またサドロイドがムチでお尻のあたりを打つた。

「ああん」

乳首の点滅が強くなる。

「まだ反撃しちゃダメよ、ぎりぎりまでマゾパワーを溜めないと」

「マジっすか」

私は、仕方なく無抵抗のまま叩かれ続けた。

ぱしーん！

「いやん」

「ぴしーん！」

「だめん」

叩かれるたびに光の点滅が強くなつてゆき、やがてそれは最高潮へと達した。ついでに私の我慢も限界だ……。

「てめえ、いい加減にしろっ！」

そう叫んだとたん、私の両目から凄まじいエネルギーが放出された。

ぱびゅーん！

敵のサドロイドはバラバラに砕け散った。

「やつたわ、ルーネちゃん、あなたの改造は大成功よ」

「すごい……敵のロボットが一瞬で粉々」

私は自分の体に秘められた力に驚き、呆然と立ちつくした。

「さあルーネちゃん、いよいよ本格的に戦つてもらうわよ。次の相手はスカトロ怪人カンチョーゴン、頑張ってね」

「アホか、やめさせてもらうわ」

ちゃんちゃん



(後書き)

これはいつか長期連載でやつてみるつもりでした。なんとかなんに怒られなければ……。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8632q/>

---

被虐的美少女戦士ルーネ（1000文字）

2011年6月4日11時43分発行